

## 2014 年度森泰吉郎記念研究振興基金 成果報告書

研究題目：ケニア・ナイロビのキベラからみる都市の社会的連帯

所属：政策・メディア研究科 修士課程 2 年

氏名：岩崎茉衣子

### (1) 研究概要

本研究は、都市のなかでも「スラム」において、人びとがどのように生きぬいているのか、生活史法をもちいて明らかにし、そのようすを「社会的連帯」として考察する。事例として、ケニアの首都ナイロビにあるスラムのひとつである「キベラ」にみられる「メリーゴーランド」に着目する。キベラは、「キベラスラム」ともいわれ、サブ・サハラアフリカでも最大級のスラムである。20 世紀初頭にヌビア人兵士に与えられた土地としてはじまり、立地の良さと住宅の安さから都市に来る人びとを受け入れながら拡大してきた地域である。キベラでは、経済活動や助け合いがおこなわれ、そのなかでもメリーゴーランドは、メンバーが拠出し、拠出金を順番に受け取るしくみをもつ組織として、日々の生活を助け合う方法のひとつとなっている。

本研究は、キベラに生活する男女合計 50 名への半構造化インタビューにもとづいて、キベラという「スラム」で生活する人びとにとって、スラムがどのような場所であるかを明らかにし、メリーゴーランドがどのような機能や役割、意味をもつものを明らかにする。そして、グローバル資本主義の結果、人と人とのつながりが解体するとされるスラムにおいて、メリーゴーランドが、キベラという「スラム」を生きぬき、よりよい生活と社会を目指すものとなっていること、さらに、「社会的連帯」という点から世界中でおきている動きのひとつであることを明らかにする。

### (2) 研究成果

2014 年度森泰吉郎記念研究振興基金をいただき、ケニアにおいてフィールドワークをおこなった。期間は 2014 年 7 月 28 日～2014 年 8 月 12 日である。キベラでは、男女合計 7 名にインタビューを実施した。また、都市に来る人びとの背景を知ることが目的に、牧畜や農耕をおこなう村落を訪問した。フィールドワークから、なぜ助け合うのか、どのように助け合っているのか、というテーマにこたえる考察をおこなうことができた。この成果をふまえ、修士論文の執筆をおこなった。フィールドワークの機会をくださった森泰吉郎記念研究振興基金にこころより感謝申し上げます。